

2. 林野庁森林管理局による国有林における取り組み

とくにシカによる森林への強い影響に対して、林野庁の国有林事業においても、各種の取り組みが進められている。ここではその概要を整理する。また、九州森林管理局霧島国有林での捕獲の取り組みについて現地視察を実施したので報告する。

2 - 1 国有林野事業における取り組み状況

(1) 国有林の野生鳥獣対策の位置づけ

国有林野では、国民の多様な要請に応えるために、公益的機能の維持増進を旨として適切かつ効率的な管理経営に努めるものとしている。また、生物多様性保全方策として、「適切な森林施業の実施による林相構造の多様性の確保」、「溪畔林等水辺の森林の保全による多様な森林の連続性の確保」、また、「ホットスポットの保全」、「劣化した森林生態系の再生」、「遺伝子資源の域内保全」が課題としてかけられている。

(2) 国有林におけるシカ被害対策の強化

シカによる森林への影響は、とくに西日本各地の国有林では極端な状況に陥っており、地域における連携体制の整備、生息状況・被害状況等のモニタリング、個体数管理等の被害防止対策の推進が、進められている。たとえば、北海道森林管理局では、エゾジカによる被害対策として、大型捕獲柵の開発を始めているほか、北海道庁と連携して除雪により国有林内へのハンターを入れて、捕獲を開始している。また、中部森林管理局では、県、市町村、信州大学と共同で「南アルプス食害対策協議会」を設立して、生息状況調査、高山帯植物の保護のための防護柵の設置、公開シンポジウムの開催等を実施している。

さらには、関東、中部、九州の各森林管理局においては、現場職員によって、自らくくりワナなどを用いた捕獲を開始している。

2 - 2 九州森林管理局における取り組み

九州では、屋久島、九州本土とも、シカによる森林への影響は甚大であることから、各森林管理署で具体的な取り組みを始めている。

ひとつは、シカによる影響の程度を簡易に把握するために、シカの好む植物、嫌う植物を示す図鑑を作成して、現場で影響の程度を把握する作業を進めている。また、職員自らシカを捕獲するために、安全に効果的に捕獲を実行するための、くくりワナの捕獲方法のマニュアルを準備して、すでに、大分西部森林管理署、都城森林管理支署、屋久島森林管理署等でそれぞれの工夫を進めながら捕獲を始めている。

また、鹿児島森林管理署内の霧島西岳地区では、森林技術センターとともに、シカの分布域の拡大を阻止するために宮崎県と連携して、広域移動規制柵（シカ・ウォール）の設置している。また、霧島地区では大型捕獲柵による捕獲の試験も始まっている。

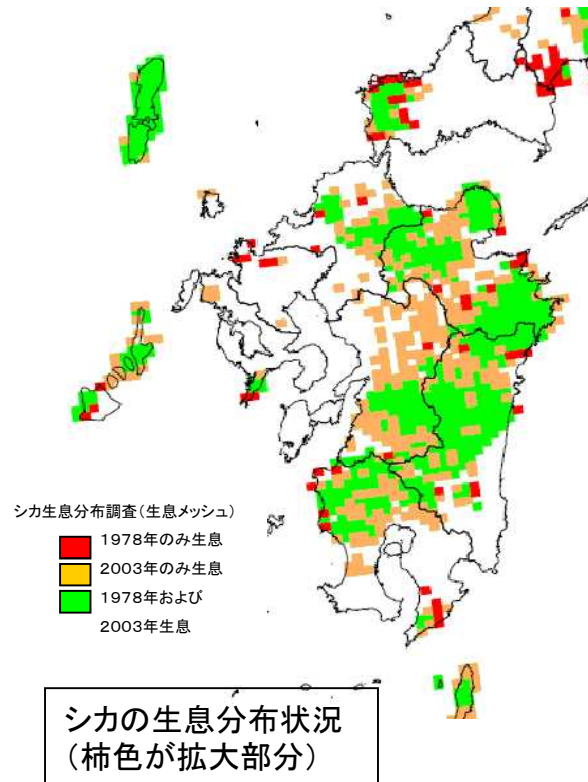
さらに、被害のひどい霧島、熊本南部、宮崎北部において、県、市町村、猟友会の参画を得て、地域と連携して捕獲を進めるために局主催でシカ対策検討会を開催するほか、市民の理解を得るためのシンポジウムを開催している。

九州森林管理局のシカ被害対策の取組状況

I 九州のシカ被害と対応の現状

1 シカの生息状況等

- 生息域は1978年から2003年の25年で1.5倍以上に拡大。
全国的には1.7倍以上に拡大
- 生息頭数は、九州全域(屋久島を除く)で27万頭以上(県数値の計)で、適正頭数(同、3.6万頭程度)の7倍以上。
- 一方、捕獲は6.6万頭程度(H21)



2 被害状況

- ほぼ九州全域において農林作物への深刻な被害が継続。シカの圧力は高コスト林業や資源価値の逸失による林業再生、山村の基盤を毀損。
- 希少種を含む野生動植物の生育地の著しい減少・劣化・消滅が進行し、生物多様性は危機的な状況。



森林が破壊(熊本県白髪岳)



ヒノキが倒伏。人工林とは思えない状況

6 シカの生息域の拡大防止(シカ・ウォール)

シカの非生息地域等への侵入による森林の生物多様性や農林業への被害を防止するため、シカの広域移動を規制する柵(シカ・ウォール)を設置。

平成22年度は、シカ生息密度が高くなってきた宮崎市青井岳地域から宮崎県南部の飫肥、鰐塚山地域への侵入路を遮断するため、宮崎県と連携を図りつつ、広域移動規制柵(シカ・ウォール)を約2.4km設置。



シカの広域移動規制柵
(右図の赤線部分) の設置

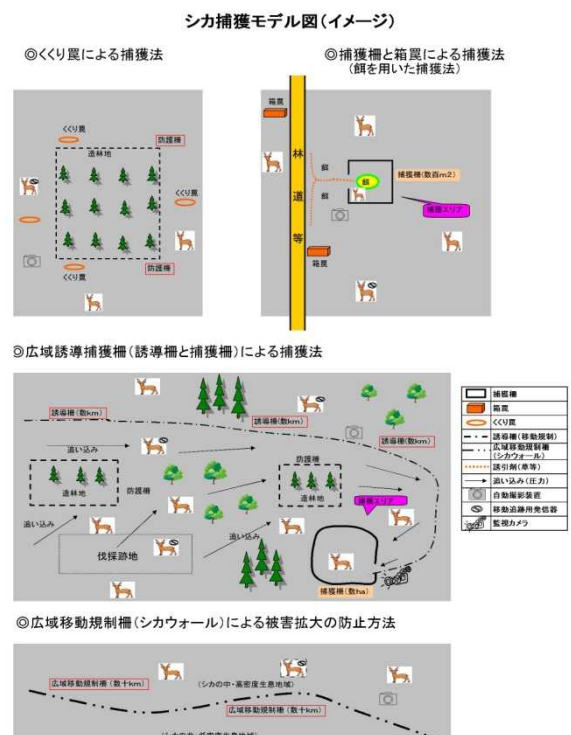
7 捕獲技術の開発に向けた取組

来年度からの本格的な試験に向け、本年度は各種の罠へのシカの反応、罠の効果、シカの誘導方法等について把握、検討。

(検討する捕獲手法等)

- ・くくり罠
- ・箱罠
- ・捕獲柵
- ・広域行動規制柵
- ・その他

シカの捕獲方法に関するイメージ



シカによる森林への被害状況 (参考)

ー 林業被害、森林の生物多様性の変質・喪失状況 ー



下層植生が消失、上木も剥皮被害



食害を受けるスギ造林地



下層植生や枝葉の採食により
1.5m程度以下の植物は皆無
(赤線がシカライン)



ヒノキの剥皮。経済価値が毀損



きれいな花が咲く毒草（ヤマジャク
とバケイリ）のみが占有



林道周辺。緑に覆われているが、シカ
の嫌いな草本類ばかり



熊本・宮崎県境、白鳥山（1997年）

小路和彦氏撮影

左右は同一
箇所。



この10年
で下層植生
が喪失



同左（2009年）

出典：五木五家荘の自然